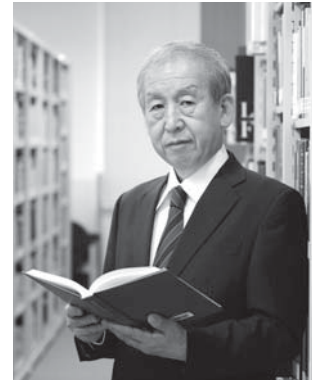


特別講演：どうなる文理融合、どうするじんもんこん —融合型研究・教育のあり方、必要性・重要性の周知—



村上征勝氏（同志社大学教授）

学問・研究の発展・進歩にともない文系学問と理系学問の分離は進行してきたが、近年、コンピュータを中心としたデジタル情報を積極的に活用することにより、両分野の研究を融合化・統合化する試みが行われている。これまで、文章の計量分析、絵画の計量分析、考古学の計量分析などに関し、データ分析の観点から文系の研究者と融合型の研究を行ってきたが、これらの具体的な研究例を通じ、文理融合をどうとらえるべきか、大学での教育はどうあるべきか、共同研究はどのように進めるべきか、さらに今後何をじんもんこんに期待するかについて、40年間の研究で考えたことを紹介する。

講演者略歴

1945年南京生まれ。1968年北海道大学工学部精密工学科卒、1974年同大学院工学研究科博士課程満期退学。1973年スタンフォード大学統計学修士課程修了。1977年工学博士(北海道大学)。1974年文部省統計数理研究所研究員、82年同助教授、89-94年総合研究大学院大学助教授兼任、94年数理研・総研大教授。2004年同志社大学文化情報学部教授。専門は人文社会科学領域のデータ解析。日蓮遺文の研究を機に、文章の計量分析を開始。考古学データや絵画の計量分析など幅広い分野で研究活動を展開している。『真贋の科学—計量文献学入門—』（朝倉書店）、『文化を計る—文化計量学序説—』（朝倉書店）、『言語と心理の統計』（共著：岩波書店）など著書多数。沙羅樹院学術賞(1992)、坂本日深学術賞(1995)、日本情報考古学会賞(1997)、日本行動計量学会功績賞(1997)、日本統計学会賞(2000)を受賞。